日本万国博覧会記念基金

平成28年度 日本万国博覧会記念基金助成事業

申請受付開始

申請書の提出期間 平成27年9月1日(火)～30日(水)

※郵送のみの受付とさせていただきます(当日消印有効)。

助成対象事業

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの事業で、万博の成功を記念するにふさわしく、かつ公益的な活動。

(1)国際相互理解の促進に資する活動

① **国際文化交流、国際親善に貢献する活動** ※平成28年度重点テーマ
② 学術、教育、社会福祉、医療および保健衛生に関する国際的な活動
③ 自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動

(2)文化的活動

① **日本の伝統文化の伝承および振興活動** ※平成28年度重点テーマ
② 芸術および地域文化に関する活動

助成額

平成28年度の助成予定総額 1億円

(1)国際相互理解の促進に資する活動

助成金は100万円から最高1000万の範囲内で、助成対象事業費の合計に対し1/2以内の額とします。よって事業者は、助成対象事業費の1/2以上を、自己資金またはその他の資金で賄う必要があります。さらに、事業形態により次のとおり助成金の限度額を定めています。

(注意)下記の事業形態の中から、いずれか一形態の事業しか選択することができません。交付される金額は、審査の結果によって限度額を下回ることがあります。

事業形態	助成限度額	事業形態	助成限度額
公演・展示	400万円	招へい、派遣	300万円
国際会議	300万円	日本語教育用機材購入	500万円
図書購入	200万円	日本語教育用機材以外の機材購入	800万円
図書刊行、フィルム、テレビ番組、ホームページの制作など	300万円	施設の建設または整備	1000万円
		国際博覧会への出展	1000万円

(2)文化的活動

助成額は下記のいずれかを選択できます。

・助成対象事業費の合計に対して1/2以内の額……100万～400万円
・助成対象事業費に応じた定額交付…… 50万～100万円

募集要項および申請書は、当協会ホームページからダウンロードできます。
http://www.osaka21.or.jp/jecfund/

お問合せ
公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
万博記念基金事業部
〒530−6691
大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル29階
TEL 06-7507-2003 E−mail jec-fund@osaka21.or.jp

平成 27 年度助成事業のご紹介

関西・大阪21世紀協会は、今年3月9日に平成27年度日本万国博覧会記念基金による助成金交付先（60事業・約1億円）を決定しました。その中から、今年4月以降に実施された助成事業のいくつかをご紹介します。当協会は現在、順次実施される助成事業について、その実地調査を進めています。

関西フィルハーモニー管弦楽団ヨーロッパ演奏旅行

事　業　者	特定非営利活動法人 関西フィルハーモニー管弦楽団
交付決定額	280 万円
実施期間	2015 年 5 月 27 日～6 月 6 日
実施場所	スイス：ピエールジアナダ財団 美術館内ホール ドイツ：デュッセルドルフ市運営ホール “トーンハレ”、 ヴュルツブルグ・レジデンツ イタリア：ドニゼッティ劇場、 ブレシア・グランデ劇場

デュッセルドルフ市運営ホール“トーンハレ”での公演（5月30日）

総立ちの聴衆から賞賛の拍手が送られる（スイス・5月29日）

関西フィルハーモニー管弦楽団の初の海外遠征として、ヨーロッパ3か国（5か所）で公演を行いました。

今回は、すべての公演地のホールにおいて日本のプロのオーケストラが出演するのは初めてで、日本の高い音楽レベルをヨーロッパの聴衆に知っていただく絶好の機会となりました。

スイス、イタリア、ドイツの歴史あるホールや会場で演奏できたことは、楽員にとってかけがえのない経験となりました。音楽監督のオーギュスタン・デュメイ氏は、現地でも厳しいリハーサルを何度も実施。これにより、楽員はますます音楽性を深め、その結果、全身全霊を込めた今までにない音で演奏でき、大きな自信を得ました。また、同楽団の演奏はすべての公演で賞賛をいただき、聴衆と主催者に日本のオーケストラに対する新たな認識を持っていただくことができました。

万博記念基金の助成が決定した後、同楽団は質の高い楽器をレンタルするためレンタル業者を精査し、信頼できる業者に変更し楽器の運搬もお願いすることができました。

オーケストラにとって楽器に関わることは非常に重要であり、楽器の借上及び運搬費に助成を得られたことが、この度の公演実現の大きな要因となりました。

各公演の状況			
	5月29日	スイス（ピエールジアナダ財団美術館内ホール） 入場者数850人。	最後のプログラムが終わると、一斉に立ち上がった聴衆から温かい拍手を得ました。
	5月30日	ドイツ（デュッセルドルフ市運営ホール“トーンハレ”） 入場者数1750人。	今回のツアー中、もっとも大きなホールでしたが、ほぼ満席を記録。細川俊夫「月夜の蓮」が美しく響き渡り、ここでも盛大な拍手を得ました。
	6月　1日	イタリア（ドニゼッティ劇場） 入場者数1000人	歴史あるオペラハウスで演奏できたことに、楽員も大きな感動を覚えました。
	6月　2日	イタリア（ブレシア・グランデ劇場） 入場者数700人	厳しいリハーサルを行い、全身全霊で演奏。今回のヨーロッパ公演の目的のひとつである「演奏力向上」の成果が得られました。
	6月　4日	ドイツ（ヴュルツブルグ・レジデンツ） 入場者数380人	世界遺産でもある華やかな王宮でのコンサート。 ドイツのバイエルン放送によるラジオ収録が行われました。

2015 ストックホルム民族学博物館茶室「瑞暉亭（ずいきてい）」整備事業

事業者	The National Museums of World Culture / Museum of Ethnography
交付決定額	100 万円
実施期間	2015 年 5 月 11 日～6 月 8 日
実施場所	スウェーデン王国（国立民族学博物館）

茶室「瑞暉亭」は、1935 年 10 月に日本とスウェーデン王国両国の文化交流の場として、ストックホルムにある国立民族学博物館の敷地に造られました。秩父宮殿下によって命名され、「瑞」は「めでたい」や「瑞典（スウェーデン王国）」を、「暉」は「照り輝く」や「日本国」を意味しています。

こうして瑞暉亭は日瑞両国の友好親善に活用されてきましたが、1969 年に焼失。1980 年代になって再び茶室を持とうという活動が始まり、1990 年に同博物館の庭園内に再建されました。本格的な数寄屋造りの茶室で、同年 5 月 28 日にスウェーデン王国・クリスティーナ王女のご臨席のもと

現地の人に補修技術を指導

瑞暉亭

落成式が行われました。

以後、10 余年にわたり瑞暉亭は本格的な補修工事がなされなかったため、近年、雨漏りや聚楽壁（じゅらくかべ：京都西陣の聚楽第跡地付近の土を用いた仕上げ用の土壁）の落脱が顕著となってきました。そこで、瑞暉亭を設計した建築家の中村昌生氏を中心に、京都（安井杢工務店）から数寄屋大工を招へいして補修工事を行うとともに、現地の職人に補修技術などが伝授されました。

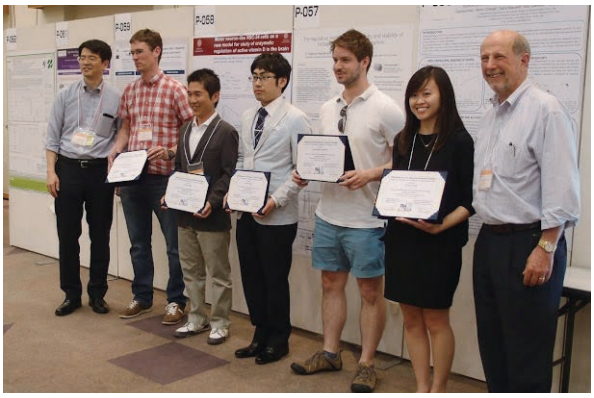
この事業の担当者は、「瑞暉亭は、博物館の来場者にとって大変価値のある魅力的なもの。私たちは瑞暉亭を通して建築と日本庭園、茶室と武士道、禅、生け花、書道など、さまざまな日本文化を紹介するとともに、日本文化の普及のためにこれからも大切に使っていきたい。万博記念基金の助成なしでは、今回の整備事業を達成することはできず、心よりお礼を申し上げます」と述べました。

第 19 回シトクロム P450 国際会議

事業者	第 19 回シトクロム P450 国際会議組織委員会
交付決定額	180 万円
実施期間	2015 年 6 月 12 日～15 日
実施場所	オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

シトクロム P450 とは、細菌から植物・動物まで生物界に広く分布し、生命科学のあらゆる分野に登場する酵素群の総称です。人体では主に肝臓や小腸で酒や薬を分解する役目を担っており、この酵素が弱いと酒に弱くなったり、薬が効きすぎて副作用が出るといわれています。シトクロムP450は、1962 年に大阪大学蛋白質研究所で発見され、現在、外来異物の分解や生体内物質の合成など、医学、薬学、農学、環境科学をはじめ、さまざまな分野において重要な研究課題となっています。とりわけ日本の研究レベルは高く、つねに世界をリードしてきました。その応用研究では、希少有機物質の合成生物学的な製造など独創的な研究が展開され、その成果のひとつに、サントリーグローバルイノベーションセンターの「青いバラ」があります。

一方、環境分野においては、外来異物の分解作用として、環境中にある有害物質を分解して水に溶けやすくするといった「環境浄化」を研究しているところもあります。フランスでは、合成が非常に難しい物質をシトクロム P450 を使って合成し、

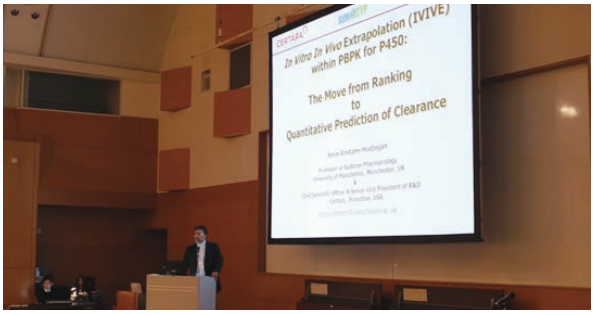


優秀な発表を行った若手研究者を表彰

新薬開発につなげて人に使用している実例も報告されています。

シトクロムP450の国際会議は1976年から始まり、ヨーロッパ、アメリカ、日本で2年毎に開催されています。日本での開催は1999年（仙台市）と2009年（名護市）につづき3回目。ネパールでの地震や韓国のMERSの影響も懸念されるなか、当初予定の300名を超える306名の参加者があり、うち6割が海外からの参加であったことから、日本開催に対する関心の高さが伺えました。基調講演では、シトクロムP450のグループに含まれる一部の蛋白質を結晶化することに成功し、形のある物質として扱えるようになったことが発表され、多くの関心を集めました。また、各セッションでは熱心な討議が行われました。

今回の国際会議組織委員会の山崎浩史委員長は、当協会の実地調査を受け、「近年、国際会議の開催に企業支援が得にくい状況にあるなか、万博記念基金の支援は非常に大きな支えになっている」と述べました。



講演のようす

討議のようす

劇団青春座 創立70周年記念「久女の恋」演劇公演

事業者	劇団青春座
交付決定額	130万円
実施期間	2015年5月23日～24日
実施場所	北九州芸術劇場

劇団青春座は、1945年10月に現在の北九州市で創立された、現存するものとしては日本でもっとも歴史あるアマチュア劇団。敗戦後の瓦礫の山と化した北九州の街で16名の若者が興し、「劇団員数名」という危機も乗り越えながら「青春座が北九州の文化をつくる」という信念で、年2～3回の公演を一度も休むことなく昨年まで累計223回行ってきました。これまでに劇団員になった市民は延べ1900名を超えます。

助成対象となった今回の公演は、同劇団が取り組む「郷土シリーズ」のひとつで、小倉ゆかりの俳人・杉田久女を通して、女性が生きにくかった昭和初期に芸術（俳句）に恋した女性の生き方を描いたもの。5月23日と24日の2回上演され、計画（700人）を大きく上回る932人の市民が観劇しました。

劇団青春座「久女の恋」舞台挨拶風景

劇団青春座「久女の恋」上演風景

現在、35名の劇団員は、学生以外は皆働いており、練習は公演の3か月前から週3日・19～21時に行っています。チケット販売やポスター掲示なども劇団員の職場や近隣で手配りしており、衣装や舞台装置も手づくりが中心です。劇団青春座の井生定巳代表は、「劇団の活動を持続可能にするためにも、万博記念基金の助成は大変ありがたいこと。赤字覚悟の計画だったが、助成によって劇団経営にダメージを受けることなく、次回公演へのステップとすることができました。アマチュア劇団として、これからも地域の文化活動を地道に底上げし、市民に郷土の誇りを喚起していきたい」と、助成への感謝と今後の意気込みを述べています。

来場者からは、「久女の俳句に賭ける情熱に感動した」「郷土ゆかりの人物を取り上げるのは地元劇団の責務だ」「30年近く観てきたが、舞台が重厚になった」「70年も休みなく公演を続けてきたことに敬意を払う」など賞賛の声が寄せられました。また、5月25日の毎日新聞の報道では、上演中の写真とともに、「セリフに感情がこもっていて、涙が出るくらい感動した」という70代女性の声も取り上げられました。